

二条裸麦「キラリモチ」の高品質・安定栽培法を開発しました

農業総合センター農業研究所

【研究の概要】

もち性大麦品種「キラリモチ」は、機能性成分である食物繊維のβ-グルカンを多く含み、炊飯後に褐変しにくく、もち性でプチプチとした良食感であることから、消費者ニーズの高い品種です。しかし、遅れ穂^注が発生しやすく、収量が低いという欠点があります。そこで、「キラリモチ」を高品質で安定的に生産するため、遅れ穂の発生抑制と収量増加を両立する栽培法を開発しました。 注) 遅れ穂：通常よりも遅く出穂し、成熟が遅れる

【研究内容】

①「キラリモチ」の高品質・安定栽培法

遅れ穂の発生を抑制し、収量を増加させるための適切な播種量および施肥法を検討しました。

②「キラリモチ」の経済性評価

播種量と基肥窒素量を組合せて栽培し、得られた収量から試算した所得を比較し、最も経済性の高い組合せを検討しました。



「キラリモチ」の穂と炊飯時の写真

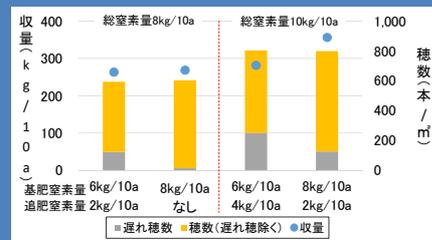
【研究成果】

①「キラリモチ」の高品質・安定栽培法

追肥量を減らし、基肥に重点を置いた施肥法にすることで遅れ穂を抑制できることが明らかになりました。基肥窒素量と茎立期の追肥窒素量は、それぞれ10a当たり8~10kg、2kgまでとします。

②「キラリモチ」の経済性評価

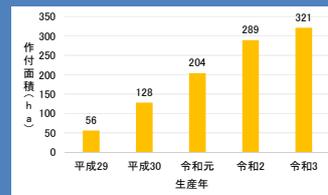
11月中旬の播種適期において、播種量を10a当たり8kg、基肥窒素量を10kgとすることにより、最大収量が得られ、10aあたりの所得は最大の76千円となります。



基肥・追肥窒素量別の収量と穂数

【将来の展望】

本県の、令和3年産「キラリモチ」の作付け面積は321haであり、今後は需要に応じた増産を支援していきます。本成果は、生産現場において高品質・安定生産に向けた指導場面での活用が期待できます。



県内の「キラリモチ」の栽培面積の推移